

## 鶏の改良増殖目標

農林水産省

## 鶏の改良増殖目標の公表について

平成22年度を目標年次とする鶏の改良増殖目標を次のとおり定めたので公表する。

平成12年4月7日

農林水産大臣 玉沢 徳一郎

## 1 卵用鶏

### (1) 改良目標

生産コストの低減と消費・流通ニーズに対応した品質の向上を図るため、遺伝的能力の改良の推進と併せて飼養・衛生管理の改善を図ることとし、能力等に関する目標を次のとおりとする。

#### ① 能力

ア 日産卵量、飼料要求率等の改善を図り、総合的な経済性を高めることに努めるものとする。

イ 消費者ニーズに対応するため、卵殻質及び卵内容について改良を推進するとともに、卵重については現状程度とする。

また、産卵期間を通じて安定した品質の卵が生産されるよう努めるものとする。

ウ 育成率及び生存率については、疾病に対する遺伝的な強健性の付与、飼養・衛生管理の改善等により、向上に努めるものとする。

エ 産卵初期における卵重の増加を図るとともに、産卵持続性の高い実用鶏の作出に努めるものとする。

能力に関する目標数値（全国平均）

	産卵率	卵重量	日産卵量	50%産卵 日 齢	飼 料 要求率
現 在	% 82	g 62	g 51	日 150	2.2
目 標 (22年度)	83以上	62-63	52以上	145-150	2.2以下

注：産卵率、卵重量、日産卵量及び飼料要求率は、それぞれ鶏群の50%産卵日齢に達した日から1年間における数値である。

② 改良手法

ア 特長ある系統の作出に努め、これを利用した交配種の組織的な造成及び普及を促進するものとする。

イ DNA解析等新技術の開発及び利用を推進し、効率的な改良に資するものとする。

③ その他

ア 清浄なひなの生産のため、種鶏及びふ卵の衛生管理の徹底に努めるものとする。

イ 畜産環境の改善に係る飼養管理技術の向上等を推進し、鶏ふんに係る環境負荷の低減を図るとともに、その適正な処理と利用を促進する。

(2) 増殖目標

鶏卵の需要動向に即した生産を行うことを旨として、飼養羽数は173百万羽とする。

## 2 肉用鶏

### (1) 改良目標

生産コストの低減と消費・流通ニーズに対応した品質の向上を図るため、遺伝的能力の改良の推進と併せて飼養・衛生管理の改善を図ることとし、能力等に関する目標を次のとおりとする。

#### ① 能力

ア 飼料要求率等の改善を図り、総合的な経済性を高めることに努めるものとする。

イ 母系種鶏の繁殖能力の向上に努めるものとする。

ウ 肉質の改良については、消費・流通ニーズに配慮しつつ、次の点に留意するものとする。

(ア) 腹腔内脂肪量の減少を図りながら、産肉性の向上に努めるものとする。

(イ) 特色ある肉質を有する系統を活用するとともに、飼養管理の改善により肉質の向上に努めるものとする。

(ウ) 高品質な肉を生産するため、特に在来鶏を活用した実用鶏の普及・定着化に努めるものとする。

エ 育成率については、疾病に対する遺伝的な強健性の付与、飼養・衛生管理の改善等により、向上に努めるものとする。

ブロイラーの能力に関する目標数値（全国平均）

	体 重	育 成 率	飼料要求率
	g	%	
現 在	2,600	96	1.9
目 標 (22年度)	2,700	98以上	1.9以下

注：1) 体重は、雄雌の49日齢時の平均体重である。

2) 育成率は、鶏群のえ付け羽数に対する49日齢時における羽数の比率である。

3) 飼料要求率は、49日齢における体重に対するえ付けから49日齢までの期間に消費した飼料重量の比率である。

② 改良手法

ア 特長ある系統の作出に努め、これを利用した交配種の組織的な造成及び普及を促進するものとする。

イ DNA解析等新技術の開発及び利用を推進し、効率的な改良に資するものとする。

③ その他

ア 清浄なひなの生産のため、種鶏及びふ卵の衛生管理の徹底に努めるものとする。

イ 畜産環境の改善に係る飼養管理技術の向上等を推進し、鶏ふんに係る環境負荷の低減を図るとともに、その適正な処理と利用を促進する。

(2) 増殖目標

鶏肉の需要動向に即した生産を行うことを旨として、飼養羽数は114百万羽とする。

(参考) 過去の改良増殖目標の概要 (鶏)

1. 卵用鶏

	第1次 (昭和37年公表、 46年度目標)	第2次 (昭和44年公表、 52年度目標)	第3次 (昭和50年公表、 60年度目標)	第4次 (昭和55年公表、 平成2年度目標)	第5次 (昭和63年公表、 平成7年度目標)	第6次 (平成8年公表、 平成17年度目標)	第7次 (平成12年公表、 平成22年度目標)
能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>産卵個数 211→240個</li> <li>卵重量 53 → 56g</li> <li>初産日齢 単卵種 180→160日 兼用種 210→170-180日</li> <li>育成率 70→95%以上</li> <li>生存率 70-80→90%以上</li> <li>体重 単卵種 1,800→1,800g 兼用種 2,000-2,400 →2,000-2,400g</li> <li>飼料の利用性の改良</li> <li>強健性の向上</li> <li>卵質の改良</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>産卵個数 227→255個</li> <li>産卵率 62→70%</li> <li>卵重量 56→56-58g</li> <li>初産日齢 170→160日</li> <li>育成率 80-90→95%以上</li> <li>生存率 80-85→90%以上</li> <li>体重 1,800-2,000 →1,700-1,800g</li> <li>飼料要求率 3.0-3.5 →2.7以下</li> <li>強健性の向上</li> <li>斉一性の向上</li> <li>卵質の改良</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>産卵個数 248→263個</li> <li>産卵率 68→72%</li> <li>卵重量 59→58-60g</li> <li>初産日齢 165→160日</li> <li>育成率 85-90→95%以上</li> <li>生存率 80-85→90%以上</li> <li>体重 1,800-1,900 →1,700-1,800g</li> <li>飼料要求率 2.8 →2.5以下</li> <li>強健性の向上</li> <li>斉一性の向上</li> <li>卵質の改良</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>産卵個数 259→277個</li> <li>産卵率 71→76%</li> <li>卵重量 60-61→61g</li> <li>初産日齢 160-165 →155-160日</li> <li>育成率 95-97→96%以上</li> <li>生存率 80-85→90%以上</li> <li>体重 1,800-1,900 →1,700-1,800g</li> <li>飼料要求率 2.6-2.7 →2.5以下</li> <li>疾病に対する遺伝的強健性の付与</li> <li>卵の斉一性の向上</li> <li>卵殻質、卵内容の改善</li> <li>鶏卵の消費動向に即した卵重量</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>産卵率 76→80%</li> <li>卵重量 61-62→61-62g</li> <li>初産日齢 155-160 →155-160日</li> <li>育成率 97→97%以上</li> <li>生存率 83-88→90%以上</li> <li>体重 1,700-1,900 →1,700-1,900g</li> <li>飼料要求率 2.4-2.5 →2.3以下</li> <li>総合的な経済性を高める</li> <li>疾病に対する遺伝的強健性の付与</li> <li>卵殻質、卵内容の改善</li> <li>凍結精液等新技術の開発利用の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>産卵率 78→82%</li> <li>卵重量 62-63→62-63g</li> <li>初産日齢 155-160 →155-160日</li> <li>育成率 97→97%以上</li> <li>生存率 86-90→90%以上</li> <li>体重 1,700-1,900 →1,700-1,900g</li> <li>飼料要求率 2.2-2.3 →2.2以下</li> <li>総合的な経済性を高める</li> <li>疾病に対する遺伝的強健性の付与</li> <li>卵殻質、卵内容の改善</li> <li>胚操作等新技術の開発利用の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>産卵率 82→83%以上</li> <li>卵重量 62→62-63g</li> <li>初産日齢 150 →145-150日</li> <li>飼料要求率 2.2 →2.2以下</li> <li>総合的な経済性を高める</li> <li>疾病に対する遺伝的強健性の付与</li> <li>卵殻質、卵内容の改善</li> <li>DNA解析等新技術の開発利用の推進</li> </ul>
その他		<ul style="list-style-type: none"> <li>交雑種の組織的な改良と普及の促進</li> <li>飼養管理技術の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>優れた種鶏の作出及びこれを利用した交配種の組織的な改良と普及</li> <li>飼養管理の改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特長ある優良種鶏の作出とこれを利用した交配種の組織的な改良と普及</li> <li>飼養管理の改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特長ある優良種鶏の作出とこれを利用した交配種の組織的な改良と普及</li> <li>飼養管理の改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特長ある系統の作出とこれを利用した交配種の組織的な改良と普及</li> <li>飼養管理の改善及び周辺環境への配慮</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特長ある系統の作出とこれを利用した交配種の組織的な改良と普及</li> <li>畜産環境の改善に係る飼養管理技術の向上、鶏ふんに係る環境負荷の低減</li> </ul>

2. 肉用鶏

	第1次 (昭和37年公表、 46年度目標)	第2次 (昭和44年公表、 52年度目標)	第3次 (昭和50年公表、 60年度目標)	第4次 (昭和55年公表、 平成2年度目標)	第5次 (昭和63年公表、 平成7年度目標)	第6次 (平成8年公表、 平成17年度目標)	第7次 (平成12年公表、 平成22年度目標)
能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体重(56日齢) →1,300g</li> <li>・育成率 →98%以上</li> <li>・飼料要求率 →2.5以下</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体重(56日齢) 大型種 →1,800g 中型種 →1,600g</li> <li>・育成率 →98%以上</li> <li>・飼料要求率 →2.2以下</li> <li>・発育の斉一性の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体重(70日齢)2,150 →2,400g</li> <li>・育成率 96-97→98%以上</li> <li>・飼料要求率 2.6→2.2以下</li> <li>・斉一性の向上</li> <li>・と体歩留りの向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体重(63日齢)2,250 →2,600g</li> <li>・育成率 96→98%以上</li> <li>・飼料要求率 2.4→2.2以下</li> <li>・強健性の付与</li> <li>・腹腔内脂肪量についての改良</li> <li>・若齢肉としての品質の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体重(51日齢)2,300 →2,600g</li> <li>・育成率 97→98%以上</li> <li>・飼料要求率 2.1→2.1以下</li> <li>・強健性の付与</li> <li>・腹腔内脂肪量についての改良</li> <li>・総合的な経済性を高める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体重(51日齢)2,400 →2,700g</li> <li>・育成率 96→98%以上</li> <li>・飼料要求率 2.1→2.1以下</li> <li>・疾病に対する遺伝的強健性の付与</li> <li>・腹腔内脂肪量についての改良</li> <li>・総合的な経済性を高める</li> <li>・胚操作等新技術の開発利用の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体重(49日齢)2,600 →2,700g</li> <li>・育成率 96→98%以上</li> <li>・飼料要求率 1.9→1.9以下</li> <li>・疾病に対する遺伝的強健性の付与</li> <li>・腹腔内脂肪量についての改良</li> <li>・総合的な経済性を高める</li> <li>・DNA解析等新技術の開発利用の推進</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肉専用種の導入</li> <li>・交配種の利用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肉専用種及びこれらの交配種の改良と普及</li> <li>・母系種鶏の増殖性能の改良</li> <li>・飼養管理技術の改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肉専用種の改良と普及</li> <li>・母系種鶏の増殖性能の改良</li> <li>・飼養管理の改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産肉経済性の優れた肉用種鶏の作出及びこれを利用した交配種の組織的な改良と普及</li> <li>・母系種鶏の増殖機能の改良</li> <li>・飼養管理の改善</li> <li>・飼育期間の短縮</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特長ある種鶏の作出及びこれを利用した交配種の組織的な改良と普及</li> <li>・在来鶏を活用した高品質鶏肉の開発、普及</li> <li>・飼養管理の改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特長ある系統の作出及びこれを利用した交配種の組織的な改良と普及</li> <li>・在来鶏を活用した高品質実用鶏の普及・定着化</li> <li>・飼養管理の改善及び周辺環境への配慮</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特長ある系統の作出及びこれを利用した交配種の組織的な造成と普及</li> <li>・在来鶏を活用した高品質実用鶏の普及・定着化</li> <li>・畜産環境の改善に係る飼養管理技術の向上、鶏ふんに係る環境負荷の低減</li> </ul>